

# 令和6年度 研究構想

## 1 北陽小学校校内研究全体計画

### (1) 研究主題と目指す子どもの姿

北陽小学校 研究主題

**ふるさとを愛し、未来に向かって自ら学び、たくましく生きる子どもの育成**

～「学びたい」を引き出すしかけの検証～

### 生活科・総合的な学習の時間で目指す子どもの姿

ふるさとを愛する子 (知識及び技能)	自ら学ぶ子 (思考力, 判断力, 表現力等)	たくましく生きる子 (学びに向かう力, 人間性等)
北陽のまちならではのひと・もの・ことよさに気がつき、北陽のまちに誇りと愛着を持つ姿	課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現の単元構成の中で、北陽のまちのよさを見つめたり、地域のためにできることを実践したりする姿	学級ごとの「材」をもとに、主体的に課題の解決に関わり、仲間と協働・対話をしながら学ぶ姿

### 生活科・総合的な学習の時間における、学年ごとに目指す子どもの姿

		知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
総合的な学習の時間	高学年	<b>地域の課題解決や、活性化に向けての活動ができる子ども</b>		
		まちの特徴や課題を知る子ども	まちの課題の解決を考える子ども	仲間と共に解決する子ども
	中学年	<b>まちのよさに気づき、相手や目的に沿って表現できる子ども</b>		
		まちのよさを知る子ども	まちのよさを見つけ、探究する子ども	仲間と協力して活動する子ども
生活科	低学年	<b>諸感覚で感じ、気づきを楽しむ子ども</b>		
		(知識及び技能の基礎) 諸感覚で楽しみ気づく子ども	(思考力、判断力、表現力等の基礎) 考えることを楽しむ子ども	進んで関わりを楽しむ子ども

### 生活科・北陽小学校の総合的な学習の時間の内容

(2) 総合的な学習の時間の目標・内容とめざす資質・能力

**北陽小学校 総合的な学習の時間の目標**

探究的な見方・考え方を働かせ、地域の人、もの、ことに関わる総合的な学習を通して、目的や根拠を明らかにしながら課題を解決し、自己の生き方を考えることができるようにするために、以下の資質・能力を育成する。

- (1) 地域のひとつ、もの、ことに関わる探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付けるとともに、地域の特徴やよさに気づき、それらが人々の努力や工夫によって支えられていることに気付く。(知識及び技能)
- (2) 地域のひとつ、もの、ことの中から問いを見だし、その解決に向けて仮説を立てたり、調査して得た情報を基に考えたりする力を身に付けるとともに、考えたことを、根拠を明らかにしてまとめ・表現する力を身に付ける。(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 地域のひとつ、もの、ことについての探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、持続可能な社会を実現するための行動の仕方を考え、自ら社会に参画しようとする態度を育てる。(学びに向かう力、人間性等)

**北陽小学校 総合的な学習の時間の内容**

学年	探究課題	学年テーマ	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
中学年	北陽地域の自然を活用したものづくりの楽しさ、伝統行事や文化財の面白さや、自然の豊かさを守り育てる人々や取組	3年生 【ものづくり・文化】	地域にある自然を使って、生活を豊かで楽しくする知恵や工夫があるということ、また、そのための知恵や技を伝えようとする人々や、伝統行事や文化財を守る人がいるということ	<b>【課題を設定する力】</b> ・設定したゴールの実現に向けて、今、何をすべきかを明確にもつ。 ・活動のために必要なものを準備したり、取組の順番を考え計画を立てたりする。  <b>【情報の収集】</b> 課題に沿って他者と関わったり、試行錯誤したりするなど、方法を工夫して情報を集める。	<b>【自己理解】</b> ・ふるさとの自然等を材とした活動を通して分かったことを見つめ直し、解決の仕方やものの見方や考え方が変化・成長したことを自覚する。 ・自分の考えに自信をもったり、自分らしさを大切にしようとしたりする。  <b>【協働】</b> 友達との存在を意識し、一緒に活動するよさを大切にしながら、課題の解決に向けて力を合わせて活動する。
		4年生 【環境】	地域には、他の地域ではなかなか見られなくなった動植物が見られる豊かな環境があるということ、また、その環境を守ろうと、思いをもって活動している人々がいるということ	<b>【整理・分析】</b> ・比較したり、分類したり、関連付けたりしながら情報を整理し、事実をとらえる。  <b>【まとめ・表現】</b> ・課題に沿って、理由付けしながら、評価・選択・順位付けを行ったり、要約・構造化したりする。 ・自分の意見や立場を、根拠を明確にしながら、相手や目的に沿って、方法を工夫しながら伝える。	<b>【対話】</b> ・相手が伝えようとしていることを意識しながら聴く。 ・自分の意見と比べ良さや違う点を見つけたり、つなげたりしようとする。  <b>【思い・願い】</b> ・ふるさとの活動に体験的に取り組む中で、興味・関心のあることから、自分たちの力で成し遂げたい目的をもち、その実現に向けて粘り強く取り組もうとする。
高学年	地域の特性を生かしながら地域を支える人々と共に考える地域活性化や、地域の問題と向き合ってまちづくりに取り組む人々の思いと社会参画の重要性	5年生 【キャリア】	地域には、地域の特性（環境・歴史・文化等）を活用した産業や取組があるということ、また、それらの持続可能な発展を目指して取り組む人々がいるということ	<b>【課題を設定する力】</b> ・設定したゴールの実現に向けて、見直しをもつて解決すべき課題を設定する ・予想や仮説を立て、必要なもの・ことを具体的に順序立てて構想を立てる。  <b>【情報の収集】</b> 課題に沿って他者と関わったり、方法を吟味し、工夫し、体験したり、調査したりして情報を集める。	<b>【自己理解】</b> ・課題解決の過程を通してできるようになったことや分かったことを見つめ直し、解決の仕方やものの見方や考え方が変化・成長したことを自覚する。 ・自分達の活動に自信をもったり、自分らしさを大切にしようとしたりする。  <b>【協働】</b> 友達と互いに信頼し合いながら、課題の解決に向けて役割を分担したり、支えあったりして力を合わせて活動する。
		6年生 【まちづくり】	地域には、地域の抱える問題（福祉・防災等）に対して、特性や良さを生かして、活性化やまちづくり取り組む人々がいるということ、また、地域の一員として自分にもできることがある、ということ	<b>【整理・分析】</b> ・比較したり、分類したり、関連付けたりしながら情報を整理する ・課題の解決のために必要なことを焦点化したり捉え直ししたりする。  <b>【まとめ・表現】</b> ・課題に沿って焦点化された事柄について理由付けしながら、評価・選択・順位付けを行ったり、要約・構造化したりする。 ・自分の意見や立場を、根拠を明確にしながら、相手や目的に沿って、方法を工夫しながら伝える。	<b>【対話】</b> ・相手の立場や意図を意識し、自分の考えと比較しながら、批判的に聴く。 ・共感できる部分を見つけ、一緒に新たな見方や考え方を生み出そうとする。  <b>【思い・願い】</b> ・ふるさとの活動に体験的に取り組む中で、北陽のまちの課題の解決や、地域活性化として考えられる内容を見出し、その実現に向けて粘り強く取り組もうとする。

## 2 研究主題について

ふるさとを愛し、未来に向かって自ら学び、たくましく生きる子どもの育成  
～「学びたい」を引き出すしかけの検証～

### (1) 主題設定の理由

- 北陽小学校の校区は、出雲市の中でも近年大きく発展しているまちである。鳶巣地区は、北山のふもとにある豊かな農村地帯であると共に、健康・医療と福祉の郷として発展を続けている。また、川跡地区は、古代の歴史の舞台となった斐伊川が豊かに流れ、伝統を受け継ぐ神社がある。そして、斐伊川の土手や水路には多くの生物が生息している。

このように北陽小学校の校区は、古くからの自然豊かな面と、新しく発展している面という二つのまちの姿がある。その中で川跡・鳶巣コミュニティセンターの方をはじめ、郷土の学習に大変協力的な方々がいる。北山・斐伊川・大寺薬師など、多くの自然や文化、偉人等の地域の材（まちにある「ひと」・「もの」・「こと」に関する学習材）があり、子ども達の生活科・総合的な学習の時間の追究意欲を高め、学習の発展をもたらすことが期待できる。

一方、まちの人のつながりという点、また地域行事の伝承や発展という点がまちの課題になっている。地域社会のつながりが薄れつつある北陽のまちにとって、子どもたちが担う役割は大きい。地域の様々な（ひと・もの・こと）と主体的に関わる中で、地域ならではのよきに気がついたり、再認識したりすることができ、地域への誇りや愛着を深めることができると考える。

- 「自ら学ぶ」子どもを育成するためには、自ら課題を見付けるところから活動を始めることが大切である。北陽のまちには「自然」、「歴史」、「ひと」など、豊かな学習の「材」がある。その「材」から考えられる活動を、本校の子どもに身に付けたい資質・能力をふまえ、まずは教師が整理・分析をしていきたい。そして、子どもの興味・関心・問題意識とつなげていくことで、子どもの主体的な探究活動が生まれると考えている。また協働的に学習できる学級集団づくりを行う中で、探究活動を進めていき、『たくましく生きる子ども』の育成につなげていきたい。
- 本校は平成 29 年度から生活科・総合的な学習の時間の研究を始めた。体験活動を通して生まれた子どもの思いから各学級で単元を立ち上げ、学習を深めていけば、主体的な学びを引き出すことができることが分かってきた。また、各教科で思考ツールを日常的に活用することにより、協働・対話の過程を可視化することができ、自分達が設定した課題の解決に向けて仲間とともに活動する楽しさを感じることができるようになった。しかし、年度末の実態調査アンケートでは、調べたことをまとめる「まとめ・表現」や自分の考えと比べながら話し合う「対話」などの項目において児童の苦手意識がうかがえた。生活科・総合的な学習の時間だけでなく、教科等とのカリキュラムマネジメントを通して、「まとめ・表現」「対話」など将来に生きてはたらく力の向上をめざす必要がある。
- そこで今年度は、キャリア教育の視点も踏まえ、「未来に向かって」生きてはたらく力の育成を目指していく。今まで生活科・総合的な学習の時間の研究で明らかになってきた北陽スタイルの実践のよさを生かしながら、キャリア教育で育成していくべき能力とのつながりを明らかにしていきたい。まちと密接に関わる生活科・総合的な学習の時間とおして、まちに愛着をもち、地域社会の問題を解決していくことができる資質・能力を高めるとともに、将来への夢や希望をもち、実現に向けて努力する力も育みたい。

## (2) 副題設定の理由

～「学びたい」を引き出すしかけの検証～

### ○「しかけ」とは

子ども達が本気で「学びたい」と意欲をもって学習するためには、様々な「しかけ」が必要となる。45分の授業の中で、子どもが本気で「学びたい」と感じながら対話し、思考するためには、それを生み出す様々な教師のしかけが必要である。大きく分けると【単元を通したしかけ】【事前のしかけ】【本時でのしかけ】である。

昨年度までの実践から、学習の中で特に重要となってくるしかけは、【事前のしかけ】と【本時のしかけ】であることが分かってきた。事前にその活動について子どもたちが思いや願いをもっておき、それを本時で確認すること。本時では思考ツールや板書で思考や対話の過程を可視化すること。さらに、教師が明確な意図をもち発問や意図的指名でまとめていくことである。これらのしかけを効果的に行うことにより、課題を自分ごととして受けとめ、解決していき、話したい、調べたい、伝えたいなど、「学びたい」という姿になるような授業づくりをしていきたい。

## 3 研究の目的

生活科・総合的な学習の時間の授業実践を行うことを通して、地域に愛着をもち、地域活性化のために活動できる子どもを育てる。

## 4 研究目標

地域の学習の「材」と関わり、子どもが主体の生活科・総合的な学習の時間の単元構想と授業づくりの方法について実践を通して研究する。

## 5 研究仮説

体験を通して関わった地域の「材」をもとに、子どもが主体の生活科・総合的な学習の時間の単元構想・授業づくりを行っていけば、子ども達の資質・能力を高めていくことができるであろう。

## 6 研究内容

### (1) キャリア教育の推進

○カリキュラムデザイン図の中に「学年で育てたいキャリア教育の基礎的・汎用的能力」を明記する

○指導案の本時の目標、研究の視点にキャリア教育の視点も明記する

### (2) 「学びたい」と感じながら対話し、思考するための効果的なしかけ

○子どもが「学びたい」と感じながら対話し、思考するための教師のしかけが明確な授業づくり

### (3) 地域の材を生かし、実社会と関わる夢のある単元構想

○地域の「ひと」「もの」「こと」との豊かな体験を通した、地域への愛着・地域貢献につながる単元構想

### (1) キャリア教育の推進

生活科・総合的な学習の時間を中心に、キャリア教育を推進していく。各学級のカリキュラムデザイン図に「学年で育てたいキャリア教育の基礎的・汎用的能力」を明記し、つけたい力を焦点化する。また、指導案にキャリア教育の視点を明記することで、その時間で行った取組を評価できるようにする。

## (2)「学びたい」と感じながら対話し、思考するための効果的なしかけ

45 分の授業の中で、子どもが本気で「学びたい」と感じながら対話し、思考するためには、それを生み出す様々な教師のしかけが必要である。

### 【単元を通じたしかけ】

- ・体験や人と出会うタイミング
- ・他教科等との関連
- ・人との綿密な打ち合わせ

### 【事前のしかけ】

- ・教室掲示
- ・アンケートの実施
- ・座席表の活用

### 【本時でのしかけ】

- ・資料提示の方法
- ・思考すべき課題を焦点化する発問
- ・思考ツールの提示
- ・教師の意図が明確な構造的な板書・意図的指名 など

昨年度の実践から、学習の中で特に重要となってくるしかけは、事前のしかけと本時のしかけであることが分かってきた。

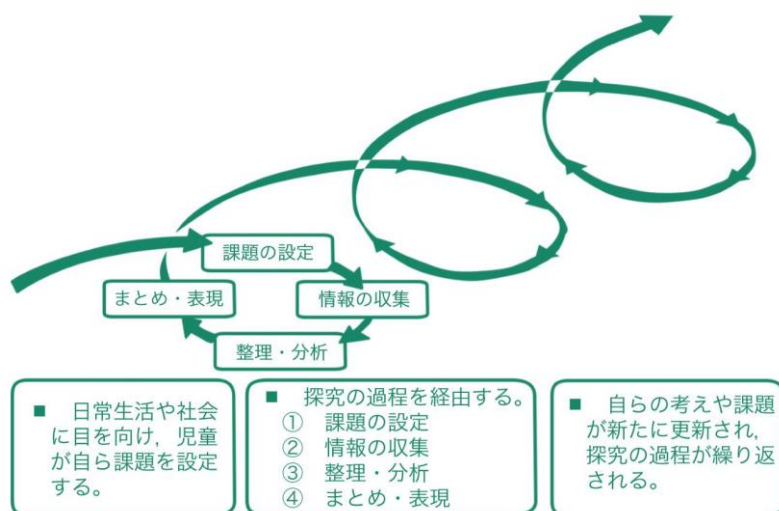
- 事前に「なぜその活動を行うのか」について、思いや願いをもっておき、その願いや思いを本時で確認すること
- 本時の学習の中で思考ツールや板書を効果的に使い、子ども達の思考や対話の過程を可視化すること
- 教師が対話の流れを予測し、明確な意図をもった発問や意図的指名で方向づけをすること

今年度は、子ども達が本気で課題解決に向けて話し合うために、主にこの3つの中から効果的なしかけについて検証していきたい。

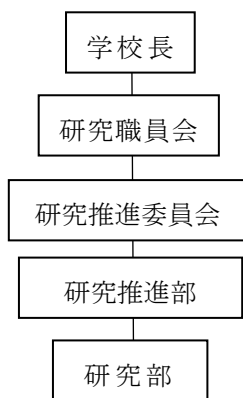
## (3)地域への愛着や地域貢献につながる夢のある単元構想

北陽のまちには多くの価値ある材がある。材に関わる体験活動を重ねることで、様々な気づきや、材に対する思いや願いが生まれる。そこから生まれた夢をもとに、その実現を目指して単元構想を行っていく。また地域と関わるということは、実社会とつながるということである。実社会と学びが関連することで、子どもの学びは将来にわたり生きて働くものとなっていくと考える。

そのためにも、教師が材の価値分析を行い、単元構想を練る中で、子どもがその材の価値にせまることができるようにしていく。その中で子どもの地域への愛着・地域貢献につなげていきたい。



## 7 研究組織について



研究部	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究構想立案</li> <li>・研究授業の計画</li> <li>・学習指導案等の形式作成</li> <li>・研究集録作成</li> </ul>	
研究推進部	研究環境部
<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究構想の提案</li> <li>・カリキュラムデザイン図の提案</li> <li>・指導案作成時の助言</li> <li>・研究会参加計画</li> <li>・指導案集の作成</li> <li>・研修会の運営</li> <li>・研究紀要の作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基盤となる力を育てるための学級経営の工夫の研究, 事例提案</li> <li>・学級で活用できる思考ツールの活用提案</li> <li>・各学級で共通し行うべきことの提示 (日直・発言の仕方・掲示物等)</li> <li>・実態調査アンケート</li> <li>・地域の人材バンクの作成</li> <li>・地域材とそれに関わる人材のコーディネート</li> <li>・生活科・総合に関する図書館環境の整備</li> <li>・資料収集・管理</li> <li>・学級掲示物案提案</li> </ul>
◎原 ○加藤 伊藤 松本優	◎林 ○三原昌 川瀬 倉橋 竹原

低学年部		中学年部		高学年部	
一年会	二年会	三年会	四年会	五年会	六年会
ほかほか (特別支援学級)					

## 8 研究計画について

### (1) 校内授業研究会について

#### ○授業公開について

- ・各学年1回密案での授業公開（指導案は各学級の生活科・総合的な学習の時間の内容に沿って作成する）
- ・訪問指導は低・中・高学年で1回ずつとする。（学力向上、同和問題学習の授業を含む）
- ・全学級1回授業公開をするが、略案での授業でよいものとする。  
（初任研・同和問題学習の授業を除く。）

#### ○授業・研究協議への参加について

- ・密案での授業については、指導案を配り、低・中・高学年別のメンバーと希望者が参加する。
- ・略案での授業については、各学年会での参加とする。（日報やデスクネットで紹介する）

### (2) 年間の見通し

	校内研究授業（予定）	研修予定	・活動の見通し
4月		10日 研究構想の共通理解 材について、 17日 研究環境部の話 思考ツール、各学年材の検討	・各学年の行事，教科内容をもとに見通しをもつ ・材の検討
5月		※デザイン図の作成	・各学級の単元構想原案作成 ※キャリア教育との関連もわかるようにする。
6月	第1回校内授業研究会 （研究部提案授業）	18日 授業づくりについての共通理解 31日 キャリア教育研修会	
7月	第2回校内授業研究会		
8月		（新潟市立小針小学校教諭 小川雅裕先生） 思考ツール研修会	・各学級の単元構想見直し ・カリキュラムデザイン図見直し
9月	第3回校内授業研究会		
10月	第4回校内授業研究会 第5回校内授業研究会		
11月	第6回校内授業研究会		・20日（水）生活科発表会
12月			・2学期の実践のふりかえり
1月			
2月			・14日（金）総合発表会 ・児童アンケート実施 ・教職員研究まとめアンケート実施
3月			・紀要作成

(資料1) 北陽小学校 生活科・総合的な学習の時間でめざす子どもの姿系統表

ふるさとを愛し、自ら学び続ける意欲と豊かな心を持ち、たくましく生きる北陽の子の育成					
北陽小学校 系統表					
能力・資力	学校目標	観点	低学年	中学年	高学年
思考力・判断力・表現力等	本物の学力を身につけた子	〈課題の把握〉	・地域の人々や、自然との関わりの中から体験を通して思いや願いをもつ。 ・何をすればよいか考えたり、必要なものを準備したりしようとする。	・設定したゴールの実現に向けて、今、何をすべきかを明確にもつ。 ・活動のために必要なものを準備したり取組の順番を考え計画を立てたりする。	・設定したゴールの実現に向けて、見通しをもって解決すべき課題を設定する。 ・予想や仮説を立て、必要なものを具体的に順序立てて構想を立てる。
		〈情報収集〉	体験の中から情報を集め、比較したり、分類したり、関連付けたり、視点を変えたりして対象をとらえ、ちがいやよさを見つける。	課題に沿って他者と関わったり、試行錯誤したりするなど、方法を工夫して情報を集める。	課題に沿って他者と関わったり、方法を吟味し、工夫し、体験したり、調査したりして情報を集める。
		〈整理・分析〉		比較したり、分類したり、関連付けたりしながら情報を整理し、事実をとらえる。	・比較したり、分類したり、関連付けたりしながら情報を整理する。 ・課題の解決のために必要なことを焦点化したり捉え直したりする。
		〈まとめ・表現〉	・良さを生かしたり、試したり見立てたり予測したり、見直しをもったりして創りだす。 ・相手に伝わるように様々な方法で、分かりやすく表現する。	・課題に沿って、理由付けしながら、評価・選択・順位付けを行ったり、要約・構造化したりする。 ・自分の意見や立場を、根拠を明確にしながら、相手や目的に沿って、方法を工夫しながら伝える。	・課題に沿って焦点化された事柄について理由付けしながら、評価・選択・順位付けを行ったり要約・構造化したりする。 ・自分の意見や立場を、根拠を明確にしながら、相手や目的に沿って、方法を工夫しながら伝える。
学びに向かう力・人間性等	くらしを見つめ、よりよくしようとする子	〈自己理解〉	・ふるさとの豊かな自然体験を通してできるようになったことや新たに分かったことを見つめ直す。 ・自分の変化や成長に気付き、自信をもったり自分らしさを大切にしようとする。	・ふるさとの自然等を材とした活動を通して分かったことを見つめ直し、解決の仕方やもの見方や考え方が変化・成長したことを自覚する。 ・自分の考えに自信をもったり、自分らしさを大切にしようとする。	・課題解決の過程を通してできるようになったことや分かったことを見つめ直し、解決の仕方やもの見方や考え方が変化・成長したことを自覚する。 ・自分達の活動に自信をもったり自分らしさを大切にしようとする。
		〈協働〉	友達と一緒に、互いのことを気かけ合いながら協力して活動し、そのよさを感じ取る。	友達存在を意識し、一緒に活動するよさを大切にしながら、課題の解決に向けて力を合わせて活動する。	友達と互いに信頼し合いながら、課題の解決に向けて役割を分担したり、支えあったりして力を合わせて活動する。
	よい行いができ、自他を大切にする子	〈対話〉	・互いの良いところを見つけて共感しながら聴く。 ・自分と違う意見や考え方があることに気付き、自分の考えに生かそうとする。	・相手が伝えようとしていることを意識しながら聴く。 ・自分の意見と比べ良さや違う点を見つけたり、つなげたりしようとする。	・相手の立場や意図を意識し、自分の考えと比較しながら、批判的に聴く。 ・共感できる部分を見つけ、一緒に新たな見方や考え方を生み出そうとする。
		故郷に愛着と誇りを持つ子	自分自身の家庭や学校・地域での生活を振り返り、やりたいことを見つけ、よりよい活動や生活を目指して自分から進んで取り組もうとする。	ふるさとの活動に体験的に取り組む中で、興味・関心のあることから、自分たちの力で成し遂げたい目的をもち、その実現に向けて粘り強く取り組もうとする。	ふるさとの活動に体験的に取り組む中で、北陽のまちの課題の解決や、地域活性化として考えられる内容を見出し、その実現に向けて粘り強く取り組もうとする。
知識・及び技能	生活科・総合的な学習の時間の内容に関連すること	〈気付き〉	追究を通して関わった対象の不思議さや楽しさ、自分との関わりに気付く。	追究を通して関わった対象のもつ意義や価値、学習活動を支えたり見守ったりしてくれた人々の存在や、北陽のまちには魅力的な「ひと」「もの」「こと」があふれていることに気付く。	北陽のまちの魅力的な「ひと」「もの」「こと」に気が付くとともに、それらを守り、活性化させようとする取り組みを行っている方々の存在や、そこにある思いの強さに気付く。
		〈固有性〉		身の回りの「もの」や「こと」には、面白さや楽しさ、豊かさ等、それぞれの対象ならではの特徴があるということ。	地域社会にある「もの」「こと」には、魅力や問題等、それぞれの対象ならではの特征があるということ。
		〈関係性〉	生活科の教科の内容として身に付けるべき知識及び技能	身の回りの、「もの」「こと」の特徴や現在の状況は、他の「もの」「こと」との繋がりの中で形成されたり、存在したりしている、ということ。	地域社会にある、「もの」「こと」の特徴や現在の状況は、他の「もの」「こと」と多岐に関わり合う中で、形成されたり、存在したりしている、ということ。
		〈行動性〉		身の回りには、対象の魅力積極的に楽しんだり、守ったり、伝えたり、広めたりするための「ひと」の知恵や技、取組がある、ということ。	地域社会には、対象の魅力を守り、維持、発信したり、不安・問題・困難を解決、解消したりするための「ひと」の行動や取組がある、ということ。

## 北陽小学校 単元づくりチェックシート

### 【北陽小学校 単元構想のチェックポイント】

- 体験活動の中での子どもの思い・願いから生まれた単元構想になっているか。
- 単元当初に総合でめざしたい姿、活動の目的について教師と子どもで共通理解されているか。
- 各教科とのカリキュラムマネジメントが考えられているか。
- 単元を通して実現をめざすゴールが、明確になっているか。
- 地域への愛着につながり、地域のためになる活動になっているか。
- 具体的な「だれのために」「なんのために」が明確になっているか。
- 子どもにとって身近で繰り返し関わりができる具体的な対象が考えられているか。
- 材に対して造詣の深い、関わりが期待できる「ひと」が考えられているか。
- 本校の資質・能力系統性の内容が身につく、またその内容が網羅されているか。
- 総合的な学習の時間の内容は、本校の探究課題に沿っているか。
- 各小単元（生活科は単元）の学習課題が、学習活動の流れに沿った、子どもにとって切実なものになっているか。

### 【北陽小学校 小単元構想のチェックポイント】

- 資質能力系統表の中の項目が、小単元の具体的な内容から考えられているか。
- 教師のしかけ、活用する思考ツールなど、具体的な手立てが考えられているか。
- 思考ツールの活用場面や、活用する思考ツールが適切か。
- 関連する教科等の内容が具体的になっているか。
- 「本小単元に臨む子どもの姿」が、それまでの学習活動や地域・家庭・学校での実生活に基づいて、どのような思いをもって、本小単元に臨んでいるのか具体的になっているか。
- 小単元の入り口（＝小単元の課題）と、小単元の出口（＝学習課題を追究した結果）が対応しているか。また、次の小単元へのつながりが見えるものになっているか。
- 一つ一つの学習課題のつながりが、子どもの思考や学習活動の流れに沿っているか。

### 【北陽小学校 授業づくりのチェックポイント】

- 子どもが本気で話し合ったり、取り組んだりしたい切実感のある内容になっているか。
- ①めあての確認②課題をつかむ③ふかめる④ふりかえる、の45分の授業マネジメントが考えられているか。
- 本時に向かう児童の思いが、座席表により分析されているか。
- 相互指名の場面や、意図的指名で取り上げるべき子どもの思いが考えられているか。
- 本時課題が明確で、解決するための「焦点化された課題」を教師が明確にもっているか。  
EX 課題「米粉のよさを広めるためには、私たちはどのような取り組みをすべきなのだろう」  
焦点化された課題「米粉のレシピを伝えることは、米粉のよさを広めることにつながるのだろうか」
- 焦点化された課題を解決するための思考ツールが適切に設定され、グループでの活動手順や方法が具体的に考えられているか。
- 思考ツールの足跡をのこし、それを表現する方法が考えられているか。（発表用のホワイトボードなど）
- 子どもの思考や思いを整理する、構造的な板書計画が立てられているか。